

大分・杵築 城下町の風情を活かし和服が似合うまち創生

江戸時間を味わう

東京藝術大学美術学部建築科 講師 博士(工学) 河村 茂

1. 地域活力の低下を懸念 人口減少・高齢化、産業の衰退、空き家・空き地の増加

杵築は、大分県の北東部で国東半島南部に位置する、人口約3万人ほどのまちである。南東に別府湾・伊予灘を望み北に緑豊かな山を背負う、地形の起伏に富んだ坂道のまちで、東には大分空港が位置し、これへのアクセス道路・大分空港線のほか、宇佐別府道路、大分自動車道といった3本の高規格道路が結節している。

歴史を辿ると、杵築のまちは1394(応永元)年に、大友親重が木付ノ庄に城を築いたことに始まる。その後、1645(正保2)年に能見扶親が3万2千石で入封、以後、明治になるまでこの地を治める。杵築のまちは、湾を望む風光明媚な台地の突端に城(日本で最も小さい)が築かれ、この西方の高台に南と北に分かれ武家屋敷が、その間の谷地には商家や町家が、それぞれ建ち並び、これを石畳の坂道が結びVの字をした「サンドイッチ型の城下町」を形成している。



杵築市の位置



酔屋の坂



サンドイッチ型城下町・塩屋の坂



杵築城

これは江戸期の身分制度を反映したもので、日本で唯一のものといわれている。杵築のまちは、今もその佇まいを色濃く残しており、その中に身を置くとあたかも江戸時代にタイムスリップしたかのような気分になる。しかし、そんな杵築のまちも近年、住民の高齢化や建物の老朽化が進み、空き家や空き地がみられたり、建替えにより江戸風情を損ねるような現代風の建物も目につくようになり、地域活力の低下が危惧される状況を呈するようになってきた。

2. 歴史的風致を活かしたまちづくり 江戸風情が漂う非日常の世界

そこで杵築のまちでは、国東の自然地形と豊後路の小京都といわれる歴史的風致を活かし、地域を活性化しようと「歴史と文化が薫り豊かな感性があふれるまち」を目標に、観光客等の増加を図り町に賑わいを創出するべく、この地にあった環境・景観の整備や、まち興しのためのイベ

「地方創生」支援プロジェクト



ントなどを仕掛けている。そうした対応の中でも目を引くのは、城下町の風情を活かし、観光客自らが着物を着て和傘をかざし、町中を巡って楽しむユニークなまちづくりの展開である。

・道路整備が契機

そのまちづくりの契機となったのは、谷地の商店街を貫く都市計画道路・宗近魚町線（むねちかうおまちせん）の建設である。この道路、当初は幅員は12mで計画されていたが、車社会の進展に伴い自動車交通の利便性と商店街の**活性化**をめざし幅員16mに変更された。ところが20世紀も末を迎える頃になると、急速に社会の雰囲気が変わり、「このまま道路建設を進めると、杵築



都市計画道路・宗近魚町線の整備前と城下町風に整備された後 宗近魚町線（左から右下へ伸びる）

のまちは壊れてしまう」として、道路の拡幅工事に一部着手したところでストップがかかる。

そして歴史的風致の維持向上の観点から、道路計画が見直されることになる。しかし、地元商店街では、車利用の利便性を高めて対応するのか、それとも街並みを良くして顧客を呼び込むのかで大いに揉める。結局、大分空港や広域幹線道路の整備進展をふまえると、観光による地域の活性化も重要として双方が折り合い、道路整備とあわせ歴史的風致を活かし、江戸風情が感じられる商店街へと再生が図られることになった。

具体には、この道路、歴史的建造物等が立地する区間（410m）について幅員が16mから再度12mに変更され、あわせて無電柱化（裏配線）と歩道舗装の修景化（擬石ブロック張）を進め、道路整備と沿道の建築物の保全・再生活用との間に調和が図られることになった。これに伴い当地区の通過交通を排除するため、旧市街を取り囲む形に新たに**環状道路**が計画された。



城下町杵築マップ(中央の太い道路が谷地を通る宗近魚町線)



谷地、整備後の商店街

「地方創生」支援プロジェクト



○地区計画に即し建築規制と助成措置で町並み整備

道路が整備される際には土地の買収が行われ、沿道建築物の更新が一举に進むので、道路整備事業の施行は町並み整備の絶好のチャンスとなる。杵築では、この機を逃さず商業地を軸とした中心地区の歴史的風致を活かしたまちづくりに向け、その理念と沿道建築物の建替えルールを設定するべく、平成8（1996）年3月に地区計画（約5.3ha）を策定する。これを受け同年7月には旧町家地区地区計画における建築物等の制限及びまちづくりに関する条例を定め、建築物等の用途・意匠・高さ・壁面の位置などを、歴史的風致維持向上の観点から規制・誘導している。

また、地区計画に即し城下町の風情が醸し出されるよう、身近なまちづくり支援街路事業制度を適用し（平成17～21年度）、まちづくり交付金を活用するなどして助成措置を講じ、商店街の町並みを江戸風に整えていった。こうして3K（汚く暗く窮屈（幅4-5m））状態にあった商店街が、道路整備（平成8年度～平成18年度）を契機に、江戸の町並み風情を醸す明るく魅力的な商店街へと生まれ変わった。このとき台地上に位置する市役所も、そのファサード意匠を場所柄にあうよう、奉行所風のデザインに変えた。

さらに、杵築では、歴史まちづくりの舞台を広げようと、江戸期のまちの面影を色濃く残す、北台・南台地区周辺（36.5ha）を街並み環境整備促進地域に指定、平成21年度より施設の修景化に向け街並み環境整備事業をスタートさせ、城下町の風情をさらに奥深くしている。

即ち、歴史的建築物の保全や道路の補修だけでなく、地元の人や観光客の憩いの場となる休憩施設、観光交流センター「きつき衆楽観」（旧酒蔵を改修し、大衆演劇を主に、ミニコンサートなどを行っている。館内には地元特産品を揃えた販売所や地元産の食材を使ったグルメを提供するレストランなど、観光客に憩いの場を提供している。）を平成21（2009）年に整備するとともに、民間の住宅や塀などを対象に助成を行い、江戸風情を醸す歴史的風致の範囲を順次、広げてきている。



奉行所風の市役所



南台・武家屋敷



北台・武家屋敷



藩主、能見邸

3. 和服で江戸の臨場感を楽しむ 体験型まち並み散策

杵築では、江戸風情を醸すまちとして観光の舞台が整ってきたことをふまえ、次はイベントだとして商店街の人々を中心に、まち興しの会が立ち上がり、お城祭りや観月祭等の行事を順次、実施し賑わいの創出に取り組んでいる。とりわけ市民に広く親しまれている「お城まつり」は毎年5月上旬に開催され、会場となる北台・南台の武家屋敷や谷地の商店街などでは、江戸時代の衣装を着けた人々が「大名行列」や「花魁道中（おいらんどちゅう）」などを繰り広げ、まちを盛り上げている。その様子はまるで江戸時代にタイムスリップしたかのようである。

「地方創生」支援プロジェクト



こうした杵築のまちの取り組みが評価され、平成 21(2009)年 4 月に市が「きつき和服応援宣言！」を行うと、杵築のまちはNPO法人「きものを着る習慣をつくる協議会」より、全国で初めて「きものが似合う歴史的まち並み」に認定される。

これを受け杵築では、「お城祭」といった一過性の行事に終わらせるのではなく、「着物が似合うまち」をテーマに、この地を訪れる人々に江戸時間を存分に味わってもらおうと、平成 23(2011)年4月に「きものレンタル和楽庵」をオープンさせ、希望者に着物の貸し出しと、これに付帯した様々なサポートサービスを開始している。

具体には、130着にも及ぶ着物を揃え、これを貸し出す(1着2400円)とともに、着付けのサービスも行っている。また、着物姿で杵築城下を散策すると、公共施設や観光文化施設の入館料が無料になったり、食事の割引や粗品の進呈などが受けられる。さらに、月に一度実施される「きもの感謝祭」には、プロカメラマンによる記念撮影のサービス、そしてプレゼントも用意されている。実際に、着物を着て日傘を差し石畳の城下町をそぞろ歩くことの魅力と、そのワクワク感から、この**体験型町並み散策**は年齢を問わず人気を博している。



谷地の通りを行く城祭りパレード

江戸時代にタイムスリップ

地場産の食材を用いたきつきサンド

昨今、近代日本も経済成長の時代を終え文化成熟の時代に入っている。そして生活に余裕もでき余暇時間を手に入れた人々の間では、まちを舞台に非日常性を味わうイベント、例えば、10月 31 日のハロウィンの日に、それらしきコスチュームに身を包みグッズを携え、都会のまちを練り歩いて楽しむことなどが流行り出している。

ここ杵築では、そもそも町並みが江戸風に出来ていることから、この本物のまちを活かして、この場に相応しく和服で着飾って、江戸情緒を存分に体感してもらおうと仕掛けている。即ち、観光客自身が着物を着て町並みにあわせ散策することで、互いに観たり観られたりすることで、まちと同化し臨場感が高まっていく。一種のテーマパーク仕立ての町並み観光であるが、舞台が本物であることから、まるで江戸時間にタイムスリップした感覚を味わうことができる。

杵築では昨今、年間 100 万人を超える観光客を集めるようになったが、さらなる地域活性化に向け地場産の食材を挟んだ「きつきサンド」を創作したり、観光ボランティアガイドの意識向上などおもてなしサービスの質を高めるべく対応している。また、近隣の豊後高田(昭和の町で売っている)や宿泊施設を多く抱える国際観光温泉文化都市・別府などとも連携し、観光地としての広がりにも努めている。

「地方創生」支援プロジェクト



参考資料等

新谷洋二(1990):「歴史的な都市における道路計画の考え方」土木計画学研究・論文集No.8

自治制度研究会(2013):自立可能な地域経済社会の構築「3. 杵築市の「歴史的街並みを活用したまちづくり」, 全国知事会

伊勢原市(2013):「大分県杵築市視察報告書」新政いせはら

本村俊樹(2014):歴史的町並みにおける空地・空家の活用に関する研究, 大分大学

阿部竜也(2014):地区計画に基づくデザイン誘導と地区の実情に関する研究ー杵築市城下町地区を対象ー, 大分大学

大分県杵築市 HP

大分県杵築市観光協会 HP

掲載写真等

杵築市の位置、杵築城、城下町杵築マップ、南台と北台・武家屋敷、藩主・能見邸、谷地の通りを行く城祭りパレード、

サンドイッチ型城下町・塩屋の坂、地場産の食材を用いたきつきサンド <http://www.kit-suki.com/tourism/>

酢屋の坂、奉行所風の市役所、江戸時代にタイムスリップ <http://www.city.kitsuki.lg.jp/>

都市計画道路・宗近魚町線（整備前） <http://www.city.kiryu.gunma.jp/web/home.nsf>

宗近魚町線 <http://www.mlit.go.jp/>

谷地、整備後の商店街 <http://www.fukuoka-support.net/event-oita.html>

「地方創生」支援プロジェクト

